

第3期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に係る 各団体との意見交換会 意見内容

【砂川建設協会(9/24)】

- (KPIについて) 超えられないような目標をたててもしょうがないのではないか。
- 市民サービスや、引っ越してきた際の支援など、市民でも知らない部分が非常に多いため、内部に向けて発信すべきではないか。また、外部に向けてもチラシを出すなどしてPRをする必要があるのではないか。
- (婚活について) マッチングアプリによる出会いが多くなってきているため、オアリアルパを活用して市でマッチングアプリサイトを作ったらどうか。
- 飲食店に活気がなくなると誰も外に出なくなってしまうので、手を打つ必要がある。若い人は仕事が終わった後に行くところがないため、他のまちに行くという話もある。
- 砂川市に家を建てたらローンの金利が優遇される措置などもあれば良い。
- (住宅に係る補助金について) 他市町村と比較して自分のまちはどうなのか、改めて数字で検証する必要がある。
- 宮城の沢などあまり人の住んでいない地域からまちなかに移る際に助成金を出すなど、人のあまり住んでいない地域に対する市の経費を抑えるような方法はないのか。
- 屋根の雪下ろしサービスやハートフル住まいるなどの補助金申請の際の書類を簡素化した方が良い。書類の中で本人がサインする部分は、高齢になると字を書くことに抵抗のある人もいるため、電話確認などでOKにするなど、柔軟な考えでやっていけないか。
- 今どこも人が足りていない状況で、雇用創出事業は砂川市に必要なのか。
- 若い人が1度外に出るのはしょうがないが、戻ってこられるような魅力あるまちづくりをしていかなければならない。
- 社員の家賃負担はすでにあるが、企業にとっては制度をその人に合わせて作っていく必要があるため非常に使いづらい。企業が申請するのではなく、個人が申請できるようなメニューがあれば良いのではないか。例えば、もともと砂川に住んでいた人がUIJターンで戻ってきたら5年間家賃を半分支援する、10年間市民税がかからないなど。
- 中学生、高校生くらいの段階で、砂川市のチャンネルに登録させる事業はどうか。砂川のラインアプリでも良いが、誰でもショート動画を送ることができ、離れていてもずっと砂川とつながっているという状態を作ると良いのではないか。

【砂川金融協会(10/6)】

- 企業誘致も大切だが、砂川の事業者に勤める人に砂川に住んでもらう策を考える必要がある。
- 経済を盛り上げていくには、現役世代に移住してもらうのが1番経済効果がある。
- 砂川市には全国レベルの会社も、業種はバラバラだが数社ある。持っているものをうまく活かしてまちを盛り上げていけないのか。
- (観光について)点で終わってしまっているの、それを線にできれば良いのではないか。スイートロードのくくりのように、砂川の線をどう作っていくかが重要。
- 旭川空港と新千歳空港の中間点になるので、そういう部分を活かしてJTB等と連携するのも良いのではないか。
- 北電の火力発電所廃止後は、内部の見学ツアーのようなものが出来たら、それを目当てに来る人もいるのではないか。奈井江町の砂子組では、毎日のように全国から露天掘りの見学が来ている。
- 北海道ならば雪も使えるため、データセンターの誘致は全道的にかなり話があると聞いているので、そういう企業の誘致も良いのではないか。
- 金利の上昇を見据えた事業者への支援がメニューとしてあれば良い。砂川市の制度は良いと思うが、使い勝手が悪い。運転資金の限度額が500万円、設備資金が3千万円となっているが、運転資金が500万円となると、大きい企業なら人件費にもならないところがある。最大売り上げの1か月分とするなど、会社の規模に応じた運転資金の支援とするのはどうか。
- 事業承継したい市内業者と事業をやってみたい人とのマッチングができれば、税収の維持にもつながるのではないか。
- DX関連のサービス導入にはそれなりの費用がかかるため、導入する事業者に対する支援があれば、砂川市の強みになると思う。

【砂川市校長会(10/7)】

- 施設の改修や新しい施設の整備などの設備投資といったハードの面では大変うまくいっている。ソフトの面もプレミアム商品券といった市民に還元する事業や給食費の無償化、高校生以下の医療費の無償化など、大きいまちではまだ手付かずの部分も次々と実施しており、まちづくりの方向性としてはうまくいっていると感じる。
- 人口減少を受け止めると言っても、人口が減少していけばまちは消滅してしまうので、人の奪い合いも必要だと思う。近隣はもちろん、全道や本州のリタイアした人たちにも住もうかなと思ってもらえるような、東川町のような発想で政策を打っていくことも必要になるのではないか。
- 塾の有無やスポーツクラブの数など都会に敵わないところもあるので、子育て世代だけをターゲットにした人口流入を打っていくのは難しいところもあると思う。他

のまちと連携できるところで連携しながら、砂川が中空知地域を元気にさせる中心地のようなまちづくりの構想ができるの良いのではないか。

- 義務教育学校が開校になった場合に出てくる余剰のクーラーを砂川高校に持っていくことはできないか。
- 南幌町では助成によりどんどん家が建っているが、すでに空き家も出てきているという話も聞くので、簡単に助成することは将来的に良いのかと聞かれるとどうなのだろうとも思う。
- これだけ熊が出ると砂川市に住みたいと思うのか。すでに熊によるイメージはついており、そこで砂川市に住もう、良いところだよと言ってもあまり通じないのではないか。
- 砂川市は、子育て世代への支援はすごく充実しているが、子どもがいない人にとって住むメリットはないと思う。高齢者になっていく人間を感じる魅力は、安全やバスなどの公共交通への支援などだと思う。閉校後の北光小付近など、人が少なくなった場所への環境整備もまちの仕事ではないか。
- どのまちも似たような取り組みを行っているように感じる。周知の仕方はバラバラだが、東川町は発信の仕方が非常に上手いと思う。乳幼児から高齢者まで、年齢層に合わせた事業の周知の発信の仕方が重要。
- 砂川高校の入学者数については、周辺市町の人口減少なども考えると今後の見通しは暗い。便数が少ない、バス代が高いなど交通網の脆弱性もある。
- 砂川高校として定住者を増やす策は卒業生を根付かせること。生徒を市内企業に就職させることが学校としてできるミッションだと考えており、就業意識や地域愛という部分も含めて授業の中でプログラム化しなければならないと考えている。

【砂川商工会議所(10/9)】

- 次の世代に承継すると決まっている個店が少ない。プレミアム商品券も、使用されている店舗はコンビニが上位を占めていて、その後にやっと小売店や飲食店が出てくる。
- 企業側の負担(社会保険料や賃金)も大きいため、人を雇用するのも難しくなっている。
- お菓子屋さんにはピンポイント、点で観光客が来ており、これをどうやって面にしていくかがはずっと前からの課題で、うまくいっていない。
- すないは思った以上に利用されており、観光協会や商工会議所などの管理する職員にも負担がかかっている現状がある。キッズスペース(外)がもう少し広かったら良かったと、子どもから直接言われたことがある。
- すないは、まちなかの1つの拠点としては良いと思うが、すないを拠点として市内のお店へ回遊させるというのは難しく、今後の課題になるだろう。
- 若い人でやる気のある人はいるため、そういう人が創業する際に厚い支援をして

あげると良いのではないか。

- 協力隊とまち場との接点、つながりは、最初は結構あったが、今は見えない。
- 上砂川の協力隊のように、自由に自分たちでやってみるものの割合を増やしても良いのではないか。
- 地域交流センターは人材が不足しているため、舞台技術や舞台企画をやってくれる人を協力隊で募集してくれと何度もお願いしているが、受け入れてもらえない。
- 砂川の企業でも外国人労働者を雇用しているところが増えてきている。今後ますます増えていけば、今は各事業所で色んなかたちで支援しているだろうが、災害があった際のレクチャーやマナーのレクチャーなどが市としても今後必要になるのではないか。
- 居酒屋の内装の整備への補助は要望として今回あげようと思っている。年齢を重ねると座っての宴会が厳しくなってくるが、テーブル席のある居酒屋は少ない。
- パークホテルが1年使えないため、会議をするにも場所がなく不便。

【砂川市町内会連合会(10/16)】

- 横断的な目標も、KPIを設定して何らかの評価をするべきだったのではないか。
- 自主防災組織に係るKPIの目標数値の設定が甘いのではないか。
- 安心して暮らし続けられる地域という部分で、熊対策をしっかりとやることは必要なのではないか。
- 交通安全の取り組みについて、飲酒運転の問題もあるため、載せなくて良いものなのか。
- 地域の人々との意見交換会をもう少しやったら良いのではないか。例えば、小中学校の統合に伴い使わなくなった校舎の利用について、地域の話として意見交換会をしたいという話が市から出てこないのが不思議。地域の代表が町内会連合会だが、もっとその下の方の意見を聞くことも大事ではないか。町内会連合会としては毎年11月に市の理事者と懇談会はあるが、もう1回くらいあっても良いと思う。
- 交通の便はだんだん悪くなってきていて、公共交通はあるが、値段をもっと一律にしても良いのではないかと思う。タクシーのようにはいかないが、この時間帯で言えば来てくれるなど、もう少し検討していただいても良いのではないか。
- タクシーを呼ぶ時にスマホを使えばワンタッチで呼べるなど、スマホを持つような積極的な方策を考え、DXを推進するのは大事ではないか。
- お試し暮らし事業をやっていても、なかなか移住定住に結びつかないのが残念。できる限り希望者を受け入れられるような体制とするのはどうか。

【(一社)砂川青年会議所(10/17)】

- 青年会議所でも、子どもたちが進学等で砂川を離れてもまた砂川へ戻ってきたいというまちづくりをしていきたいし、しっかり受け入れられるよう就職口の面などで企業さんへのアプローチを展開していきたいと思っている。
- 昔は市のイベントや行事も、まちの企業等が中心になって盛り上げていたイメージがあるが、まちを盛り上げようという動きが昔と比べて少なくなっている。新たな団体も増えているので、うまく連携していけばもう少し変わってくるのではないかな。
- 市でやりたいけどできないことや試験的にやろうとしていること等あれば、青年会議所に言ってもらいたい。様々な団体等とのパイプを使いながら、地域としてどうやっていくかを共にやっていくことは双方にメリットがある。
- 青年会議所の運動の中に青少年の育成があり、それに大変苦慮しているので、可能であれば、義務教育学校が開校になったら授業を自分たちに持たせてほしい。土日の事業だと来られない子もいるため、そういった子にも希望を見せてあげたい。そうすると、それが叶いやすいのは学校の教育現場だと思う。
- 以前は商工会議所に年間で使用料を支払って、自由に場所を使わせてもらっていたが、すなわちに移転してから、利用料が毎回かかり、時間制限もある状態。可能であれば利用料の減免などの対応をいただきたい。
- 緑と花の祭典の来場者数が減ってきているように思う。青年会議所が立ち上げたイベントでもあるので、より盛り上げるために、もっと関わりを持たせてほしい。
- 義務教育学校が開校になったら、授業というかたちに関わらず、子どもたちと関わられるような体制を整わせていただき、愛郷心を育てていきたい。
- 有名企業は点々とあるが、自分たちの会社のことしかやっていないという感覚がある。お客さんに対して、お店側から、こういったところ、お菓子屋さんやラーメン屋さんがあるなど、発信してもらおうのはどうか。
- 市内の飲食店は、日中のお店だとすでにキャパオーバーのところも結構多いように感じるので、そういうお店に人が来るように情報発信してくれと頼んでも消極的なのではないかな。夜のお店だと、日中は空いていないということもあるので、例えば、夜も夜のお店がスイートロードをやるというのはどうか。
- イベントで大きなインパクトを与えて、新聞などに取り上げてもらうことで、覚えてもらうというやり方もある。
- (オアシスパークについて)ジェットスキーなどをしに来ている人は、濡れた格好でご飯を食べて帰るよりはその場で持ってきたものを食べて帰った方が早いという人が多いと思うので、土日だけ出店料を無料にしてテントなどで飲食店を出店してもらえばお金が落とせるのではないかな。
- 砂川出身者もしくは砂川高校出身者に対して、例えば、砂川に帰って創業するという人には金額を上乗せするなどの補助や特例みたいなものがあれば、帰ってきたいという思いは強くなるのではないかな。

【砂川地区連合会(10/22)】

- 学校で使用するドリルの価格は、物価高騰により 1.3 倍くらい上がっており、1家庭1人分で1万円くらいになってしまう。
- タブレットが更新されたが、教員全員に端末があたらなかった。1つの学校の2台、3台しかない状況。実際に授業をする担任が持っていないとやりづらい。
- 副読本は、他のまちだったら1人1冊与えられるところもあるが、砂川は使いまわしで名前すら書けない状況。それはどうなのか。
- 違うまちにいる時から、砂川市は熊の問題でうまくいってないのではないかという噂を聞いていた。熊の対策についてこんな風にやっているよと、せめて市民にPRはできないのか。今年度は熊の関係で学校行事が結構つぶれてしまった。
- 結婚新生活支援事業は、物価高で経済的負担が大きい中、良い取り組みだと思うので、今の基準より年収などのベースを上げることでより良い方向にいくのではないか。
- 若い世代が砂川で家を建てて一生暮らしていきたいと思うためには、柔軟な子育て支援がすごく重要だと思う。
- 職場(北電)の 30 代の子育て世代から、もう少し遊べる公園がほしいという声を聞く。
- 豊沼駅から SHIRO に歩いて向かう人は見かけるが、道路がぼこぼこして歩いていくそう。発電所でもトラックを洗浄してから出ていくようにしているが、道路が黒くなっており見栄えの悪い状態になっている。ふるさと納税も SHIRO でかなり売れていると聞くので、そういうところと連携したら良いのではないか。
- 若い世代が砂川に家を建てるためには支援はすごく大事だと思う。
- 連合は会長が北教組、副会長が北電だが、両方とも職場がなくなる。組合員数が減ってきており、次々と単組がなくなっていく状況で、連合の事務局を担える人材がなかなかいない現状。働いている世代の絶対数が少なくなっているため、組合自体の活動もできなくなっている。
- 人手不足と言われている中で、よそから人を引っ張ってくるために、若い世代への定住の政策は連合的にも重要だと思う。

【新砂川農業協同組合(10/29)】

- 人口減少で農家も減っており、農協単独で対策をしていくのは厳しいところもあるので、砂川市と連携したかたちでやっていかなければならない。
- 高齢化が進んでくるため、少しでも生産者の労働力の軽減を図るために、農協で機械を入れて、個人で選果や箱詰めをしている部分を受託して行っている。そういったことが今後かなり出てくると思うので、お力添えをしていただけるとありがたい。
- 生産者が今までしていたことの一部分を農協もしくは外部の人間がやっていかな

ければならないということもでてくるし、農商工間連携の枠組みも将来的に必要な
なってくるのではないか。

- AI や DX を使った先進技術を生産者に投入していく支援を、農協ももちろん先頭
になってやっていくので、そういう枠組みも将来的にお願いしたい。
- 人口減少を止めることは無理なので、今いる人たちをどう助けるかというのが一
番の問題だと思う。生活させていくための支援が大事なのではないか。
- 北海道では東川や南幌など、実際に人口が増えているまちもある。小中一貫校
をつくり、同じエリアに高校もあるので、砂川は教育だと言えるものをつくり、教育
に熱心な人々の移住を促せば、若い人もいるので各業種につながっていくと思う。
- 地域おこし協力隊を活用して、施設園芸ではここ数年、新規就農者として実績を
あげている。底上げにかなりなっているので、今後もそこをお願いしたい。
- 生産者が本州に米を売り込みに行く際の旅費を少しでも良いので支援してい
ただきたい。
- 人口が減っているのは仕方ないと国が認めている中で、新しいものに取り組むか
らだとか、何かをプラスアルファするから補助が出るというかたちではなくて、今
後は今を維持するための支援を考えてもらえたら良いのではないか。
- (スマート農業について)水田地帯なので、無人トラクターは無理だと思う。せいぜ
いドローンだとか、直進アシストのためのアンテナ基地はどうか。砂川は南北に
長いので、おそらく中心に基地を建てても端に届かないため、どちらにも2台くら
いあればちょうど良いのではないか。除雪などにも活用できる。
- これから砂川学園が始まるが、スクールバスの台数は今後増える。今でも2、3
台で走っていて危ないと思うことがある。台数が増えて連続で走られたら、時間も
重なるので危ないのではないか。

【砂川観光協会(10/31)】

- 市役所、商工会議所、観光協会が連携してイベント等の創出に力を入れていると
ころで、ラブ・リバーやなかそらち大収穫祭などのイベントがずっと続いているとい
うことは各団体の皆様の御協力の賜物だと思う。その中でそれに関わる人たちが
少なくなっており、これからのイベントの開催にあたって支障が出てくるのではな
いか。
- 今年のラブ・リバーは、AiAi でやっていた盆踊りとラブ・リバーを一体化させたが、
AiAi で盆踊りをやっていた際はイベントに来た人たちがお店に寄っていたが、こ
のようなかたちにすることでお店に来る人が減ってしまった。お店の売上や賑わ
いが逆に減ったということもあるので、この辺りのこともまた考えていかなければ
ならない。
- 「すないる」は毎月利用者数が伸びている。4月から 10 月まで約5万人の方に利
用されており、9月は1万人を超えた。まちの中の通行という面では非常に良いと

感じており、これを維持するためにまた色々と考えていかなければならない。

- 今年は設備投資の補助金を作っていただいたが、設備投資はやる気のある人が行うものなので、非常に良い制度かなと思う。
- 中古住宅や空き家を購入した際の補助は市も出しているが、それ以上の補助を出して近隣などから新しい人を入れ込むような体制にすれば良いのではないか。家族連れの需要に合うアパートが砂川市にはなく、滝川市に人が流れているということも聞いているので、そうであれば、中古住宅を直して、そういう方々を住ませるという施策をした方が良いのではないか。子育て世帯をどう住まわせるかということが一番大事なことだと思う。
- プレミアム商品券を2万円から3万円にしたら効果はあると思う。
- 義務教育学校の工事がなくなれば、大型工事はなくなるので、中古住宅のリフォームは業者の生き残りにもつながるのかなと思う。
- どのまちもやっている政策に差はないため、どうやって情報発信をするかということが大事だと思う。奈井江町から単身で独立して1人暮らしをするという時も砂川市ではなく滝川市に行くケースも見受けられるので、そういった若い人が単身で住めるところも強化していった方が良いと思う。
- 新十津川町の農業高校は地元の人が入れないくらい人気がある。良い見本があるので、同じことをやってもしょうがないが、違う考えで上手く利用した方が良いと思う。
- (ポケモンマンホールについて)地場産業と合わせて何かグッズを作りたいなというのはあるが、なかなか難しい。
- 人とのつながりをうまく使えば、新しいこともできるし、さらにつながりができるのではないか。東京砂川会など、そういう会を作りながら色々やっていけば、どこかにつながって良いものができるのではないか。